

## 【専攻単位】研究指導概要（博士）

理学研究科科学教育専攻

---

### 1. 本後期課程で授与される学位に付記する専門分野の名称

①本後期課程で取得できる学位は、「博士（理学）」「博士（学術）」の二種類です。「博士（理学）」は、自然科学の研究手法と研究水準が求められる研究課題で修了する者に、また、「博士（学術）」は、科学関連内容の学習指導法やカリキュラム開発論、科学教育論に関する研究課題、理系キャリア論に関する研究課題等で修了する者に授与されます。

②いずれの学位を授与するのが適切であるかは、本後期課程1年次の最後に提出され、審査される「構想論文」に基づき、3名の指導教員の意見を踏まえて、研究科委員会で仮認定し、修了時の「学位論文」審査委員会（5名の委員による）で最終判断し、研究科委員会で決定されます。

③履修する学生は、それぞれが研究課題を設定していく過程から、研究内容と授与される学位の関係とその展望を含めて、主指導教員と十分な相談を行っておくことが必要となります。

### 2. 指導体制

①本後期課程に入学した時点で、主指導教員1名、副指導教員2名が決定されます。日常的な研究指導はこの3名の指導教員によって行われます。

②本後期課程では、以下のような段階的な研究指導と次の段階への進級判定が行われます。

Step1:「構想論文」の提出とそれに基づく公開の「構想論文発表会」（D1段階からD2段階へ）

Step2:「予備論文」の提出とそれに基づく公開の「予備論文発表会」（D2段階からD3段階へ）

Step3:「学位論文」の提出とそれに基づく公開の「学位論文審査会」（D3段階の修了認定）

③以上の各Stepは、1年間で修了することを標準としますが、優れた研究実績をあげるなど、博士研究が特段に進捗したと認められる場合には、期間の短縮が可能となります。その申請と短縮の可否については、個別に研究科会議で審議いたします。

### 3. 授業と研究指導の実施方法

①本後期課程では、1年次前期に、コースワークに相当する4科目の必修演習科目が設置されています。その内容を確実に身に付けることが、本後期課程で育成する研究能力にとって必要不可欠な要素であることに、十分、留意する必要があります。

②授業は、昼夜開講制を取り、さらに現職教員等には、週末や夏季休業等の期間における集中的な授業や研究指導を行うことによって学生の便宜を図ります。

③原則毎月1回程度、院生の代表者2名と「院生・教員連絡会」を開催して、教育研究環境の整備・改善を年間を通して開催している。

#### 4. スケジュール

学年	時期	研究内容及び指導方法等
1年次	4月～6月	研究指導教員・研究指導補助教員・アドバイザー教員の決定 研究テーマの決定及び研究指導計画書の作成 授業科目の受講による総合的知識の獲得
	7月～9月	実験・調査等の継続によるデータの蓄積 授業科目の受講による総合的知識の獲得 学会発表準備等
	10月～12月	実験・調査等の継続によるデータの蓄積 学会発表（時期は研究分野による）による研究内容の公表
	1月～3月	実験・調査等の継続によるデータの蓄積 学会発表（時期は研究分野による）による研究内容の公表 「構想論文」の提出とそれに基づく公開の「構想論文発表会」を行う
2年次	4月～6月	必要に応じた研究テーマの見直し及び研究指導計画書の作成 実験・調査等の継続によるデータの蓄積
	7月～9月	実験・調査等の継続によるデータの蓄積 研究の進捗状況に応じ原著論文の投稿
	10月～12月	実験・調査等の継続によるデータの蓄積 学会発表（時期は研究分野による）による研究内容の公表
	1月～3月	実験・調査等の継続によるデータの蓄積 研究の進捗状況に応じ原著論文の投稿 「予備論文」の提出とそれに基づく公開の「予備論文発表会」を行う
3年次	4月～6月	必要に応じた研究テーマの見直し及び研究指導計画書の作成 実験・調査等の継続によるデータの蓄積 研究の進捗状況に応じ原著論文の投稿
	7月～9月	実験・調査等の継続によるデータの蓄積 学会発表（時期は研究分野による）による研究内容の公表
	10月～12月	実験・調査等の継続によるデータの蓄積 博士論文題目の決定および博士論文作成準備
	1月～3月	博士論発表会・公聴会および博士論文の提出 博士課程修了者の決定